

2017年度 欧州非干渉散乱 (EISCAT) レーダー観測共同利用の募集案内

時下益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

2017年度のEISCATレーダーを用いたEISCATレーダー観測共同利用を下記の要領で募集いたします。多くの皆様の共同利用・共同研究への御参加をお願い申し上げます。

1. 概要

日本は1996年に欧州非干渉散乱 (EISCAT) 科学協会に正式加盟し、複数のEISCATレーダーを用いた特別実験を実施しています。現在は、トロムソにあるUHFレーダー (単局) 及び、VHFレーダー (3局方式が可能)、電離圏加熱装置、ロングイアビンにあるEISCAT スパールバルレーダー (ESR) の共同利用を行っています。2017年度の日本の持ち時間は、合計で約180時間になる予定です。

2. 目的

このEISCATレーダーシステムを用いることにより、サブオーロラ帯から極冠域にわたる極域の電子密度、電子・イオン温度、イオン組成、電気伝導度、イオン流、電場、電流、降下粒子、太陽風などの基礎物理量を、空間・時間分解能良く観測することができます。そのため、太陽風・磁気圏・電離圏・熱圏・大気圏結合システムの研究に大きな寄与をするものと期待されています。広い分野の多くの研究者の方々にEISCAT国際協同計画へ参加して頂き、斬新なアイデアに基づくレーダー実験やデータ解析を実施して、多くの科学的成果を上げて頂くことを強く希望しております。

また、取得されたデータ利用については、

- ・ コモンプログラム (CP、共通実験) データに関しては観測実施後直ちに、
 - ・ スペシャルプログラム (SP、特別実験) データに関しては実験実施の1年後に、
- 初期解析データ及び生データともに、EISCAT加盟国・準加盟国は勿論、加盟国以外へも公開されます。

3. 審査

この研究計画の日本国内の体制は、国立極地研究所と名古屋大学宇宙地球環境研究所 (ISEE) が日本の共同利用・共同研究機関として、EISCAT科学協会との間の管理運営面や、EISCATレーダーを用いた計画立案、実験研究の実施等、研究に関することを担当することになっています。申請を頂いた共同研究課題は、国立極地研究所の非干渉散乱レーダ委員会及びその下に設置されたEISCAT特別実験審査部会で、採択や特別実験の時間の割り当て等が審議されます。その内容を踏まえ、採択等の決定を2017年度の夏期に行う予定です。

4. 申請方法

2017年度のEISCAT共同利用の申請について、

- ・ 特別実験の公募を年1回のみ行います。今回は2017年3月31日（金曜日）締め切りです。
（緊急の特別実験希望については随時EISCAT国内推進室までご相談下さい。）
- ・ 申請資格者： 国、公、私立大学および国、公立研究機関の研究者、またはこれらに準ずる研究者
- ・ 申請書の送付先： eiscat@nipr.ac.jp

受取確認の電子メールを数日以内にお送りいたします。

もし確認が無い場合は、お手数ですが再度送付及び御連絡をお願いいたします。

申請時の注意点として、

- ・ 申請書の書式は2ページとなりますが、それでは収まらない場合にはページを増やしても構いません。
- ・ 同一代表者が申請可能な件数は2件までとします。

5. ホームページ等

各々のレーダーの性能、過去に実施されたコモンプログラム（CP）及び、スペシャルプログラム（SP）実験、EISCATレーダーを用いて行われた研究、EISCATレーダー周辺の地上観測機器の配置等については、EISCAT本部ホームページ（<http://www.eiscat.se>）や、日本のEISCATプロジェクト用ホームページ（<http://eiscat.nipr.ac.jp>）、名古屋大学宇宙地球環境研究所のEISCATホームページ（<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/~eiscat/>）をご参照下さい。

6. 問い合わせ先

eiscat@nipr.ac.jp

EISCATレーダー実験やデータ解析等に関する問い合わせは、EISCAT国内推進室までお寄せ下さい。上記の電子メールアドレスは、以下の国内推進室メンバー全員に送付されます。

EISCAT国内推進室メンバー：

宮岡宏、吉岡博、小川泰信（以上、国立極地研究所）、
野澤悟徳、大山伸一郎（以上、名古屋大学宇宙地球環境研究所）
津田卓雄（電気通信大学） 藤原 均（成蹊大学）